コロンビア日系人協会
日本語センター光園
創立50周年記念誌

ASOCIACIÓN COLOMBO JAPONESA

日本語センター「光園」創設５０周年に寄せて

在コロンビア日本国大使館
特命全権大使　森下敬一郎

今般、コロンビア初の日本語教育機関である「ひかり園」の流れをくむ、日本語センター「光園」が、創設５０周年を迎えられたことに対し、心からお祝い申し上げます。

１９６８年、当地に移住されていた柴田ご夫妻の農場で、日系人の子弟への日本語教育・日本文化の継承を目的として「ひかり園」が発足しました。そして　その後「光園」と名前を変え、今では日系人のみならず多くのコロンビア人に、日本語学習の機会、日本文化に触れる機会を提供する場ともなりました。コロンビアで日本語を学ぶ方は既に１、５００人を超え、全国日本語弁論大会も今年で第４回目の開催を迎えました。相手の言語への敬意は、相互理解の入り口であり、これだけ多くの方々が日本語を勉強されているということは本当に嬉しいことです。また、日本語学習者の中には、日本へ留学する方も多く、二国間関係を促進する人的財産となっています。

日本政府は、コロンビアにおける日本語学習促進・普及にかかる光園の功績を高く評価しており、２０１７年には光園南部校の開設にかかる草の根文化無償資金協力を実施いたしました。南部校には道場も併設され、サンティアゴ・デ・カリ市における日本語教育・日本文化普及の新たな拠点となり、既に５０名近い生徒が日本語を学んでいるとのことです。今後も、在コロンビア日本国大使館は「光園」と協力してまいります。

また、２０１８年は日・コロンビア修好１１０周年の佳節にもあたります。２０１６年の政府・ＦＡＲＣ間の和平合意によって、コロンビアが新たな時代を迎えようとする中、修好１１０周年を機に両国関係が一層緊密化することが期待されています。日本とコロンビアは、互いに遠い国ではありますが、日系人の方々の存在、特に農業分野における多大な功績のおかげで、良好な関係を築いてきました。コロンビアにおける日本に対する関心は、アニメや漫画などポップカルチャーから伝統文化、科学技術や建築技術等、多様な分野にまたがり、訪日観光客は増加の一途をたどっております。また、経済関係の促進に伴い、ビジネス関係者の往来も増えています。そうしたことにより、日西話者の需要が日に日に高まる中、日本語能力の向上は、日系人・コロンビア人の若者にとって、将来の選択肢を増やすことにも繋がるものです。コロンビアにおける日本語教育活発化に向け、「光園」のリーダーシップは、ますます重要なものになるに違いありません。これから、光園で日本語を学び、日本文化に触れる日系人、そしてコロンビア人の皆様が、日本への関心・知識を深め、日本とコロンビアの新たな架け橋となることを祈念しております。

最後となりますが、日本語教育に携わってこられた方々の努力に改めて感謝申し上げるとともに、光園創設５０周年の年に立ち会うことが出来る喜びをお伝えし、５０周年記念誌発刊に寄せる言葉といたします。

（背景：協会看板）

「ひかり園」創立50周年に寄せて

独立行政法人　国際協力機構（JICA）
コロンビア支所
支所長　室澤　智史

このたび、コロンビア日系人協会付属日本語学校「ひかり園」は創立50周年を迎えられ、独立行政法人　国際協力機構（JICA）を代表して心からお祝い申し上げます。

コロンビア日本人移住の歴史における日本語教育の変遷は、「コロンビア日本人移住七十年史」に詳細に記載されています。かいつまんで言えば、コロンビア日系社会の日本語教育は、1929年の第一次計画移住の後に子弟教育の一環として始まり、太平洋戦争の勃発（1941年）とともに中断し、戦後は世代の進行とともに日本語離れが進んできたということかと思います。その歴史の中でも、1968年6月の「ひかり園」の誕生は、移住者子弟の日本語の継承という問題に一石を投じ、日本語教師を始め関係者の皆様の弛まぬ努力で、日本語の継承を通じて、コロンビア日系社会の維持、発展に大きく貢献してこられました。

私は、これまで中南米の多くの日系社会の日本語教育支援に携わってきました。その中で、バイリンガル教育の専門家から「継承語は何もしなければ、3代で消滅する」ということを学びました。このことは避けて通れないことであり、まさにこの現実に対して抗う努力をしなければ、コロンビア日系社会の日本語は消滅していたかもしれません。その意味で、現在も日本語を話し、理解することができる三世・四世の子供達が多くいることに対して、日本語・日本文化を教え続けてきた「ひかり園」の50年の努力に敬意を表したいと思います。この子供達は、日本とコロンビアの架け橋となり、両国の友好・親善を促進する一助となっています。

また、近年は、アニメやマンガ等をきっかけに日本に対して関心を持つコロンビア人が多く、日本語の学習者も増えています。「ひかり園」は、これらの学習者を受け入れ、カリ市を中心とする日本語・日本文化等の発信一大拠点となり、いまや地域に不可欠な存在となっています。

最後に、「ひかり園」には、これからの50年もコロンビア日系人の拠り所であり、コロンビア人の日本語の学び舎であり続けていただくようお願いし、私のお祝いの言葉と致します。

（背景：創立時写真スイカ畑）

日本語センター光園創立50周年に寄せて

ボゴタ日本人学校
校長　平野惠彦

敬老会、運動会、スピーチコンテストなどで6回ほどカリを訪れました。その度、カリの皆さんが「人」と「人」、「笑顔」と「笑顔」で繋がっていることにいつも羨ましく思っておりました。日本では町内会や隣組、大火の番など、近所の付き合いが薄れる傾向にあります。ですからカリでのふれあいはいつも懐かしい気持ちを抱くとともに、とても安心した気持ちになります。

「コロンビア日本人移住七十年史」を開いてみました。光園開園は－1968 年、私は小学3年生ぐらいです。同い年ぐらいの子どもたちが学校とは別に日本語の勉強をしていたのです。思わず子どもたち（光園開校当時の記念写真…柴田農園の階段）の表情に見入りました。その子ども達は私の記憶に残る同級生たちの表情そのものにも見えるので不思議です。その沿革の歴史に光園を継続させる仲間との絆、努力と忍耐、そして誇りを感じ取ることができました。

さて、その頃の日本は 1964 年の東京オリンピックを成功させ、その後、1970 年は大阪万国博覧会が開かれました。調べてみるとコロンビア共和国も大阪万博に参加していました。同い年の光園の子どもたちも日本で開かれたオリンピックや万博を何かの報道できっと知っていたことでしょう。コロンビア・パビリオンは「健全と調和」をテーマとしていました。展示の内容は、コロンビアの伝統と現代の文芸や生き方、経済を紹介し、世界の国々とよりよい関係を将来も続けようという願いが展示の意図であったようです。当時、私の小学校の修学旅行は例年は東京でしたが、その年だけ万博への旅でした。微かな記憶の中にコロンビアのパビリオンはあったように思います。大阪は再び 2025 年に万博開催地に立候補しているようです。もしも、大阪万博が開催された時には、まず初めにコロンビア館を訪れたいと思います。今、光園で学ぶ若者、お世話になったカリからの皆さんに会えるかもしれないからです。学んだ日本語でボランティアをしていることでしょう。そんな日を待ち遠しく楽しみにしています。ひょっとして 2020 年東京オリンピックでも通訳で活躍するカリ光園の子どもたちがいるかもしれません。そんな繋がりがとても楽しみです。

一昨年、ボゴタ日本人学校は創立 40 周年記念式典を挙行しました。カリからもご来賓として町田会長がお越しになりました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともカリとボゴタの親戚付き合いが太く・長いものであることを願わずにはいられません。

（背景：創立当時の児童）

日本語センター光園創立50周年を迎えて

コロンビア日系人協会
会長　町田　栄

この度光園が創立50周年を迎えたこと、在コロンビア日本国大使館、JICAコロンビア支所をはじめ、光園のためにご尽力下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

50年前の6月、現在光園顧問である柴田富士子先生のご主人である柴田稔氏がご自分の農場の2階を改造して教室を作りひかり園が始まりました。教師6名、生徒は僅かに27名でした。小さくとも希望にあふれ、皆授業の日である日曜日を楽しみにしていました。かく言う私も教師の端くれとして教えていたことが懐かしく思い出されます。

50年経った現在、教師18名、生徒数は大人クラスで179名、子供クラスで26名、合計で205名を数えます。これほど大勢に教えている日本語教育施設はコロンビア広しといえど、この光園だけです。

昨今の世界的な日本ブームの波に乗り、光園も近年学習者数は右肩上がりで増えており、本当に喜ばしく思っています。50年も経ちますと、生徒であったものが先生として教鞭をとるようになったり、日本へ留学し専門の道を歩んでいる者もいます。少しづつではありますが人が育っているのを実感しております。日本ブームと申しましたがその間、柴田富士子先生を中心に教師が一丸となって日本語教育に邁進してきた努力の結果だと思います。

当初ひかり園は日本人移住者子弟への継承日本語教育を目的とした学校でした。しかし、現在は当初の目的を失いつつあるのが現状です。日系人子弟の数は年を追うごとに少なくなり現在全体の5%未満となっています。これは一体どういう事でしょうか。

日本の国力が増し日本文化が世界に広がり、カリ市の日系人の数も入植当時とは比べられないほど増えているにも拘わらず、日系人の学習者は減り続けているのです。日系人協会長としてこの現実を受け止め原因を知り対策を立てていく必要があると思っています。日系人子弟はJICAを始め日本の各財団から優先的に奨学金を受取ることができ日本の最先端の技術や高度な知識を得る機会が広がっています。これを大いに利用してもらいたいものです。

また、この日本語センターに学びに来ている大多数のコロンビア人に対しては、文科省の奨学金制度を始めとして日本国内には各種奨学金制度があります。それらを利用して留学者が一人でも増えるよう、多くの親日コロンビア人の夢がかなうような教育をしていってもらいたいと思っています。

日系人であれ、コロンビア人であれ、日本語を学ぶ事によって学力の幅が広がり人生が豊かになる可能性が大きくなることは大変素晴らしい事です。日本語センターは日本とコロンビアの架け橋として大変大きな役割があります。これを十分認識して頂き、これからもなお一層発展していく事を願って50周年を迎える言葉と致します。

（背景：コロンビア日系人協会）

「縁」というもの

日本語センター光園　校長　岸本和明

1985年4月、ある団体職員として私はカリ市に来て3年間過ごしました。その間二人の子供に恵まれ幸せな思い出としてカリ市は私の心に残っていました。30年後の2016年5月、突然の町田会長からの電話で、再びここに来ようとは思いもしませんでした。しかも　日本語学校の校長をするとは、、、、「縁は異なもの味なもの」という言葉がありますが、本当に不思議な縁を感じました。元々私は定年退職前には海外に出たい、好きな日本語教師をして海外で暮らしたいという希望がありました。海外に居れば日々が刺激的で日本では味わえない様々な事が体験できますし、不慣れな外国語を使い相手に自分の意思が伝わればその一つ一つが喜びとなると思っていました。ここで私は希望通りの生活が出来て毎日が充実しております。充実の最大要因は日本語教師、校長としての仕事内容です。日本のことが好きな人達に日本語を教えることができる喜びは何ものにも代えがたいと思っています。日本語センター光園は50周年を迎えましたが、この節目の年に日本語教育の最前線に立たせて頂いている縁と幸福を思い精一杯の努力を重ねて参りたいと思います。歴史を「道」に例えるなら、これからも光園の道は続いていきます。私達現場教師の努力は勿論ですが、関係者皆様の温かいご支援が無ければ道が続いていく事は難しいでしょう。今後も今までと変わらぬご支援、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

光園創立50周年を迎えて

日本語センター光園顧問　柴田富士子

この度、光園は創立50周年という大きな節目の年を迎えました。これもひとえに在コロンビア日本国大使館、国際協力機構、木曜会、ボゴタ日本人学校、さくら会の多大な御援助ご指導に支えられたお蔭と深く感謝申し上げます。

又、本校の土地購入を始め常に熱い思いで見守って下さった日系人協会歴代会長、婦人会、これまで本校に関わってこられた方々、先生方に対し厚く御礼を申し上げます。

さて本校の創立は1968年6月30日です。「わが子のため日系2世、後々の子孫のため日本語と共に数々の文化普及にも専念し、国際感覚を備えた優秀な日系人育成を目指してやりましょう」と主人の強い決意で数人の有志者と共に光園がスタートいたしました。

場所はカリ市から30分程離れた私どもの西瓜農場で、取り敢えず農場にあった二階建て倉庫を教室に改装、蝶や蜻蛉が飛び交う田園風景の中、27名の日系児童が保護者同伴、弁当持参で集まり、子供たちは溌剌と学業に励み、保護者は交流のチャンスとあって和気藹々でした。その後、日本文化が世界に広がると共に本校も大きく成長いたし、創立当時腕白だった子が現在では、立派な医者となり又教え子たちが多数日本語教師として活躍している現状に於いて、この50周年を迎えることに至り、誠に嬉しく感謝感激で胸がいっぱいでございます。

実を申しますと私は、昔台湾が日本植民地時代、高等女学校校長として日本の教育と柔道の普及に生涯をかけた父の志をこのコロンビアに於いて受け継ぎたい思いで、この光園と共に歩んでまいりました。　1998年から12年間校長役を命ぜられ何かと苦労いたしましたが、皆様から暖かく支えて戴いたお蔭で大役を果たすことができ、感謝と生き甲斐を感じています。本校は更に新しい発展を目指したいと存じますので、どうか今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。　今後、本校生が海外に羽ばたき日コ交流の懸け橋となってほしいと念願いたします。

天国では主人が一番悦んでいることでしょう。　合掌

日本語学校の思い出

'07～'09 JICA派遣日系シニアボランティア
仕切　晴治

私の派遣中に四十周年を迎えましたので、カリを離れてから、もう十年ほど経つということですね。この間に私自身も歳を重ねましたが、日本の社会も大きく変わりました。

さて、日本語学校の話ですが、私自身二回目の赴任でもあり、一回目のメキシコ（プエブラ日系人協会）の経験がそのまま生かせるものと思っていた身には、戸惑うことばかりの二年間でした。とくに〝幼少年への指導経験〟のない私には、ちょっと厳しいものがありました。まあ、固い話はさておき、印象に残っているできごとを２，３列挙して見ましょうか。

まず、最初に驚いたのは〝ラジオ体操〟の継続実施でした。次の東京五輪でも、この〝日本人のDNAになり切っているラジオ体操〟を、なんとか役立てられないか？ということが話題になっているようですが、地球の反対側で、一見バラバラなさまざまな出自の人たちが一斉にラジオ体操に取り組んでいる様子には感動しました。

協会の新年記念式典の席上、隣に座った私と同年代の男性に話しかけられましたが、まったく聞き取れませんでした。もしかして、この方、ブラジル移民の子孫か何かで、ポルトガル語を話してらっしゃるのかな？と思って戸惑っていましたら、私の様子に気づいたこの方、今度はゆっくりと「すみません。私、日本語は筑後弁しか話せませんので・・・聞き取りにくいでしょうね？」と言って下さいました。な、なんと・・・、ここまで来て日本語が聞き取れないとは－愕然としました。

次に〝大運動会〟でのできごと。もともと運動神経の鈍い私は、この類のイベントが苦手でして、なんとか出番が来ないことを祈っていたのですが、立場上どうしても・・・ということで、日本語学校チームのリレーのアンカー（４０歳以上限定）に選ばれてしまいまして・・・。それでも、最初のうち、チームが最下位で走っていましたので気楽に構えていたのですが、私の前の第三走者（西姉妹の妹の方です）が、奇跡の追い上げで、なんと一位にあと一歩というところでバトンを渡すじゃぁありませんか！最高潮に達した会場の興奮は、一瞬後にはため息に変わりました。私は、後続のすべての走者に追い抜かれ、最下位でゴールイン。最後に私を追い越していったのは、かの日本食材店の大将でした。

新築されたばかりの日系人会館、狭められつつあったFARC包囲網、帰任直前に完成した新交通システム・・・。さまざまな光景が今も鮮やかに蘇って来ます。

コロンビア日系人協会と日本語学校のますますの繁栄をお祈り申し上げます。

（背景：カリ市街地）

「飲水思源」～ 光園創立 50 周年に寄せて ～

日本語国際センター客員講師　八重島　炎

クイズです。下の絵をご覧ください。この中で、サッカーのボールはどれでしょうか。

おそらく、だれに尋ねても、「そんなの決まってるだろう。真ん中のボールだよ」という答えが返ってくるにちがいありません。でも、どうして、真ん中のボールがサッカーボールだとわかるのでしょうか。
それは、黒の五角形に白の六角形の組み合わせという、ボールのデザインが判別の決め手になったからです。私たちにとっておなじみの、この白と黒のサッカーボールのデザインは、実は今から半世紀ほど前に日本人が考案したものなのです。

日本人が考案・開発・発明したものは、この他にも、商品先物取引、味の素、水力発電、八木アンテナ、乾電池、インスタントラーメン、インスタントコーヒー、トランジスタラジオ、炊飯器、シャープペンシル、カッターナイフ、ブラウン管テレビ、魚群探知機、トイレの男子用と女子用のマーク、カップ麺、レトルトカレー、缶コーヒー、光ファイバー、電卓、カラオケ、クォーツ時計、胃カメラ、自動車のエアバッグ、自動改札機、ウォークマン、VHS ビデオ、留守番電話、ファクシミリ、CD、ファミコン（家庭用ゲーム機）、シャワートイレ、ノートパソコン、点字ブロック、デジタルカメラ、カーナビ、ソーラーシステム、絵文字、DVD、ブルーレイディスク等があります。どうですか。すごいでしょう。
ことわっておきますが、私は何も、「だから日本人は優れている」「日本は世界で一番だ」などと言おうとしているのではありません。私が伝えたいのは、「水を飲む者は、井戸を掘った者の苦労を忘れてはいけない」という言葉です。

日本人が仕事や観光で南米を訪れたとき、なぜ当該国の人々から敬意を以って遇され、一目も二目も置かれるのでしょうか。それは、先に南米の国々に移住した日本人たちが現地の社会に融け込み、地元の人々に受け入れられ、そして人々から高い評価を受けているからに他なりません。それは、コロンビアでもアルゼンチンでも変わることはありません。
今から半世紀ほど前、柴田稔・冨士子夫妻が営むパルミラ郊外の農場の倉庫の片隅に、小さな教室ができました。その教室では、一日の仕事が終わったあと、夫妻が子どもたちに日本語の読み書きを教えました。教室で学ぶ日本人の子どもはだんだん増えて、やがて小さな学校となりました。それが、今日の「光園」のはじまりです。その光園で学んで、社会に巣立っていった子どもは日本人や日系人だけではありません。コロンビアの子どももたくさんいます。もしかしたら、その数は、三千人いたという孔子の弟子より多いかもしれません。その中には、昔は生徒でしたが、今では先生になって日本語を教えているコロンビアの人もいます。私が講師を務めている国際交流基金日本語国際センターには、そういう先生たちが研修を受けにやって来ます。これまでも、そして、きっとこれからも…

（背景：Torre de Cali）

［ひかり園］創立50周年のお祝い

JICAボランティア
藤井　敏男

この度、コロンビア日系人協会 附属日本語学校に於かれましては、「ひかり園」創立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。
これはひとえに、コロンビアに移住された諸先輩の皆様が英知を結集し、不断のご努力を重ねて来られた賜であると、深く敬意を表します。

私どもは、2003年7月、JICAより日系社会シニアボランティアとして派遣され、カリに1年間滞在いたしました。
日本語教育カリキュラム作成や日本語授業の他、日本語教師養成講座や日本文化の書道やちぎり絵制作指導を担当し、充実した1年間を過ごさせていただきました。この間、日系人協会の皆様や日本語学校の先生方から心温まる触れ合いをして頂きました思い出は、私どもの人生の宝物として深く心に刻まれております。

最後に、今後もコロンビア日系人協会並びに附属日本語学校の皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。

５０周年によせて

元光園教師
坂本昌子

日本語学校創立 50 周年おめでとうございます。柴田様の農場で始まった日本語学校は、今日の日を迎えるまでには父兄会並びに日本国大使館、JICA と歴代の日本人会の会長はじめ会員の方々のご努力とご苦労があったればこそです。でもこれまで創立者として又日本語学校教師として 50 年の長い間頑張って来られました柴田富士子先生には敬意を表します。私の事になりますが、1957 年移住花嫁としてコロンビアに来まして 11 年後に「ひかり園」が柴田様の農場の倉庫で始まりまして丁度長男が 10 歳、三女が 5 歳であり 4 人の子供を喜んで入学させて頂きました。2 クラスで柴田先生と筒井先生が教えられていましてその時父兄会の事務としてお手伝いしておりました。その内にクルブボーロの会館に移り生徒数も多くなりましたので、私も母親教師としてラジオ体操や日本の歌、遊戯を教えていましたが、教師としての経験もなく外国で教えることの難しさに又、家庭の事情もあり一時休校させて頂いていましたが、1988 年倉富剛会長の勧めで JICA 日本語教師研修に 52 歳の時日本へ 3 ヵ月行き、又南米ブラジルとアルゼンチンに 1 ヵ月ずつ研修に行かせて頂き、私の若い頃の夢がかないまして 25 年間日本語教師としてお手伝いさせて頂き 65 歳まで務めました。その時の生徒達が、今では立派な社会人として頑張ってくれています。日系人協会の歴代会長はじめ新地会長の時にカリ市に日系人協会が移転になり又現在の町田会長になられてからは南部に日本文化会館も創立されるなど大変な御苦労があったことを無にしないで 3 世 4 世の日系人の方が受け継ぎ、益々の日本語学校の発展を切にお願いしたいと思います。コロンビア日本大使館はじめ JICA、ボゴタ日本人学校等のご支援とご協力のもとに今年日本語学校 50 周年を迎えることができました事はおめでたい事でございます。今後共日系人協会会員の皆様又日本語学校の諸先生方のご健勝と二校の日本語学校の益々の発展を御祈念し創立 50 周年のお祝いを申し上げます。

（背景：お祭りの神輿）

光園との出会い

光園南部校校長　勝山未央

私が教師として光園に着任し、柴田先生に初めてお会いしてお話をしたときに感じた太陽の光のような笑顔・温かさを今でも鮮明に覚えています。今も元気に教鞭を取られ、先生の授業はいつも生徒の笑顔で溢れています。そんな柴田先生のもとには、光園を卒業した生徒がたくさん挨拶をしにきます。この温かさがこの光園の源です。

その光園の 50 周年という節目の年に光園を支える教師の一人として在籍できることに感謝いたします。

50 周年を前に、2017 年 9 月には、かねてより周辺地域や大学から要望のあったカリ南部地区（インヘニオ地区）に学び舎が完成しました。生徒は新しい校舎で、最先端の技術を取り入れた教室で日本語を楽しく勉強しています。

こうして 50 年前に誕生した光園は、設立当時の意思を継ぎ、温かさを忘れず、今後も時代のニーズに適応しながら、コロンビアの日本語教育の中心となるべく、日本語、日本文化の普及に努め、日本とコロンビアの懸け橋になるような学校を目指します。本校発展のために、今後とも、皆様方からの御支援、御 指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、本校 50 周年記念行事の準備に当たり、御尽 力、御協力いただきました皆様方、御多忙中にもかか わらず玉稿をいただきました皆様方に深く御礼を申し 上げます。

創立５０周年を祝して

教師代表　マリエラ・ムニョス

光園日本語センター創立 50 周年に心からお祝い申し上げます。
本校が創立された 1968 年に私は生まれました。1991 年に光園で日本語の勉強を始め、2002 年から光園で日本語教師として務めています。人生の半分以上、日本語と関わっていることになります。この 25 年間で日本語を学びつつ貴重な経験を積むことができました。
1995 年に学生向けのプログラムで初めて来日しました。それまで映画や写真で見た日本の素晴らしさを実際に自分の目で見て、自分の体で感じたとき、言葉で言い表せないほどの幸せを感じ、心の底から日本語教師になりたいという思いが湧いてきました。多くのコロンビア人にこのようなすばらしい日本文化に興味を持ってほしいという夢も生まれてきました。

1999 年には日本にて海外日本語教師長期研修を受ける機会をいただきました。その後 2004 年、2007 年、2014 年、2017 年の日本語教師向けの研修で来日する機会を得ました。光園で日本語教師として 16 年間、優れた生徒に恵まれ、彼らからも多くのことを学びました。光園の創立 50 周年を迎えるにあたり、柴田富士子先生、コロンビア日系人協会の皆様に心から感謝申し上げます。数年間、コロンビア人の日本語教師は私だけでした。私を信頼し、また光園の一員とさせていただいたことに、重ねてお礼を申し上げます。今後も、光園の益々の発展に貢献し、光園の将来を築くために、先生方と力を合わせて、精一杯努力したいと思います。

私と日本語

在校生代表　三原みどり

光園に入った時は9歳でした。おいっこと一緒に入りました。母が私たちを光園に連れて行ってくれました。その日は本当に怖かったです。なぜなら、私のきょうしつにはたくさんの大人がいたからです。1年でひらがなとカタカナをならって別のクラスに入りました。その新しいクラスは森光先生のクラスでした。森光先生のクラスで友達と一緒に2年間漢字を学んで、楽しかったです。でもその友達がだんだんそつぎょうして私だけのこって、また別の組に行きました。寂しかったんですが、その2年で進歩したと思います。　今は13歳です。コロンビアのティーンエイジャーズと大人と一緒に勉強しています。私もコロンビアで生まれたけれど、みんなにいろいろおしえてもらいます。光園に入った時はもう日本語が少し話せましたが、書くことができませんでした。私の父が日本人なので私は日本語が話せるのは当たり前でした。会話は父とれんしゅうしています。日記も書きました。日本語センターのおかげで会話だけでなく文法や日本文化も少しずつりかいできるようになってきました。光園で勉強したおかげであるていどまで日本語でコミュニケーションができるようになったと自信をもっています。私は光園でもっと学びたいと思っています。

(背景：カリ動物園)

光園での思い出

卒業生代表　矢部なおみ

私の名前は矢部なおみです。16才です。2016年に光園を卒業しました。光園での勉強は私の人生のために日本語が役立つ事を学んだので、豊かな経験でした。光園で勉強をはじめたおもなりゆうは、私の母方の家族が日本出身だからです。私は日本人の子孫です。私は文化と伝統を受け継いでいきたいと思います。私は祖父母が私に数字とか色のようなことばを教えてくれたことがほとんどありませんでした。又、日本語だけを　話すという環境にいなかったので、読み書きするように言われていました。6才で光園に入学しました。1組でいちばん小さかったのでとてもこわかったです。私は少しずつひらがなを学びさいごに読むことを学んでいたことに気づきました。私はだんだんと友達もできて元気なこどもになっていきました。光園ではがっきをえんそうしたり歌ったりあそんだりしてこのクラスが好きでした。だから楽しかったです。2組でもひらがなをいっしょうけんめい勉強しました。敬老会でえんげきのけいこをしたことも思い出します。3組ではカタカナを学びました。私はスペイン語より日本語の方がかんたんだとわかりました。この組で日本の国歌をおぼえました。4組と5組でたくさんのたんごや漢字を学びました。2016年、JICAの研修をしんせいしたくてたくさんの日本語を勉強しました。毎日日記を書いたり、しけんがありました。先生は私にいろんな勉強を楽しくおしえてくださいました。私がけんしゅうから帰国した時は少しじょうずに話せるようになりました。とてもいいけいけんでした。あきらめないように私に教えてくださいました。光園の先生方に心よりかんしゃしています。私が習ったことはすべてしょうらいやくにたつでしょう。学習することをおしえていただき、ありがとうございました。

(背景： Iglesia La Ermita)

現在の光園 活動

紅タコ　おにぎり実習

オープンスクール

紅タコ　カレー実習

第 27 回スピーチコンテスト

紅タコ　書道

第 26 回教師合同研修

紅タコ　カレー実習

運動会

敬老会　劇「笠地蔵」

幼少年クラス

紅タコ　カルタ実習

授業風景

2018 年　光園生徒と教師

過去の光園

1968 年 6 月創立

授業前のラジオ体操

創立者　柴田夫妻

1978 年創立 10 周年

1985 年頃　お弁当風景

1988 年創立 20 周年

1991 年 JICA よりバス寄贈

1992 年第 1 回教師合同研修会

1992 年第 2 回日本語弁論大会

2000 年代日コ協会での修了式

日コ協会での学習発表会

1990 年代後半教師と学習者

2008 年　創立 40 周年記念式典

コロンビア日系人協会日本語センター光園　沿革

1968 年　柴田稔氏が発起人となり、日系人子弟への日本語教育を目的とした 学校「ひかり園」が誕生する。ひかり園は日曜 日本語学校とし て柴田氏の農場倉庫を改造してできた生徒 27 名 教師 6 名の学校であった。1 年後、農場倉庫からパルミラ市ボーロ地区に 移る。

1978 年　成人コース開設。ひかり園とは運営を切り離しカリ市内に教室を開講
同年　10 月 28 日　ひかり園創立 10 周年記念式典挙行

1988 年　6 月 30 日　ひかり園創立 20 周年記念式典挙行

1990 年　10 月第 1 回コロンビア西部地区日本語スピーチコンテスト開催

1992 年　コロンビア日系人協会 60 周年記念事業として「日•コ交流会館」がカリ市に新設され、ひかり園もこれに統合される。ひかり園は 25 年の歴史を閉じ、新たに「コロンビア日系人協会付属日本語学校光園」として運営される事となる

同年　第 1 回日本語教師合同研修会開催

1996 年　新交流会館へ移転

1998 年　5 月 23 日　日本語学校光園創立 30 周年記念式典挙行

2007 年　日系人協会会館新築に伴い現在地に移転

2008 年　6 月 28 日　日本語学校光園創立 40 周年記念式典挙行

2015 年　カリ市教育委員会の公認を得る。これに伴い、名称を「コロンビア日系人協会日本語 センター光園」とする。
教科書を「みんなの日本語」から「まるごと　日本のことばと文化」に変更

2017 年　9 月 29 日　日本語センター光園南部校　開校（カリ市 Cra.85　#14-07）

2018 年　6 月 2 日　日本語センター光園創立 50 周年記念式典挙行

（背景：光園南部校）

光園教師

Francy Sánchez

Juliana Burbano

Andrés Hernández

David Franco

Alejandro Aponte

志波容子

Daniel Mayor

森光恵子

Andrea Payan

Andrés Alarcón

岸本和明

柴田富士子

勝山未央

Angélica Cabezas

Luz Ángela Gutiérrez

Mariela Muñoz

志波明美

Yeraldine Dagua

Pablo Ochoa

Ghina Garcés

岸本真奈美

編集後記

創立 50 年記念誌を編集するに際してはコロンビア日系人協会が過去に編纂した「コロンビア日本人移住 70 年史」を参考にしたうえで、創立者の柴田先生や在職 20 年を超える森光先生は勿論の事、協会関係者や光園に関係した方々に当時のことをお伺いしたり写真の提供を頂きました。ご協力下さいました全ての方に紙面をお借りして御礼申し上げます。これからも 60 年、70 年と続いていく中で光園がどんな姿に変化していくのか、或いはまた変わらないのかを楽しみに思いながら編集作業をしてまいりました。すべての人に喜んで頂く事は出来ないかもしれませんが、記念誌が未来への一里塚になれば有難く思います。

K. Manami

日本語センター

光園

CENTRO DE IDIOMA JAPONÉS
H I K A R I E N
ASOCIACIÓN COLOMBO JAPONESA